

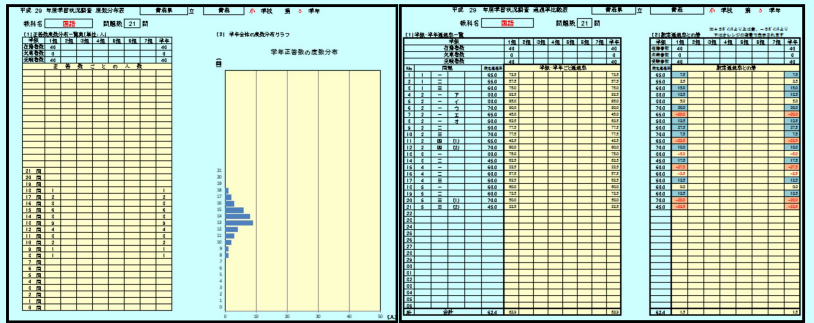
～児童生徒の「確かな学力」の育成に向けたさらなる授業改善を～

# 学習状況調査及び報告書の活用について

## 「授業改善をよりよく推進するために」

平成29年度の調査から、集計表に「**度数分布**」や「**自校の結果と設定通過率や県通過率の比較**」のシートが付いています。自校の結果を入力すると自動計算されます（県の平均通過率は入力する必要があります）。

シートを活用して各設問ごとの通過率を基に、授業改善のための自校の課題について検証するなど、分析ツールとしてお役立てください。



## 「報告書には授業改善のための指導例があります」

報告書には、各教科の分析結果や、そこから見えてきた課題に加え、課題解決のための指導例を各教科とも2例掲載しています。この指導例は**課題解決**のためだけではなく、新学習指導要領で示されている「**主体的・対話的で深い学び**」の視点による**授業改善**を意識したものとなっています。各教科での活用はもちろん、校内研修等で共有を図るなど多様な方法での活用が考えられます。そのためにも、**ダウンロードして、すぐに活用できる**ようにしてはいかがでしょうか。

**指導例**  
図と式を関連付けて、L字型の面積の求め方を考える指導  
～単元名「面積」（第4学年）～

**【指導の流れ】**  
1 L字型の図形を提示し、面積を求めるための見直しをもたせる。  
今日の図形は…  
長方形なら面積を求めるけれど、この図形はどうやって求めればいいのか？  
この図形から長方形を見つけ出すことができれば求められそうです。

**ポイント**  
図形の見せ方を工夫し、前時までの図形との違いを捉えさせる。また、見直しをもたせる際には、これまで身に付けてきた図形の合成や分解、変形など、図形の構成についての見方を働きかけ、どのように求めればよいか話し合わせる。

**【学習活動】** L字型の図形の面積の求め方について個人で考えさせる。  
ア

**指導例**  
新聞のトップ記事の構造と内容を手掛りに説明文を読ませる指導  
～単元名「新聞記事を中心に説明文の内容をつかもう」～

**【指導の流れ】**  
1 新聞のトップ記事を読んで構造や内容について話し合わせ、その特徴を考えさせる。  
**学習活動** 学習に見通しをもち、新聞のトップ記事を読み、その特徴を考える。  
これから読む説明文の学習に生かすために、新聞のトップ記事を読んで、その特徴を考えよう。今日のゴールは、その説明文のリードを考えよう。

**ポイント**  
見出しや副題は、記事の内容が何と目で見えるかを要約している。記事の中心を簡単にまとめたものがリードかな。本文も含めた3つの構造が逆三角形だよ。  
記事本文は、結果や結論を重要な情報として最初に書いている。次に経緯や論議に至る経緯。そして関連情報。関連性に注目すると、本文も逆三角形の構造と捉えられ。

2 課題を追究させる。  
**【学習活動】** グループで、鎌倉時代に開かれた仏教の宗派の特徴を整理し、共通点を考える。  
(思考ツールを使った例)

**ポイント**  
各宗派の特徴を整理し、共通点を考えるために、思考ツール（クラゲチャート等）を活用させる。

報告書は県教育委員会のホームページからダウンロードできます。  
掲載先は<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/jyoukyouchousa.html>です。  
指導例は県総合学校教育センターのホームページからもダウンロード可能です。

## 「各学校ではこんな活用をしています」

調査や報告書の活用工夫に取り組んでいる学校があります。自校では、**どのような取組が有効か組織的に検討**し、できることから取り組んでみませんか。

以下は平成29年度に実施した学習状況調査の活用アンケートの回答からです。（原文のまま掲載）

### 【小学校】

- ・調査結果を基に、各教科の落ちているところを抽出し、再度指導するなど理解の定着を図った。
- ・本校での成果や課題を明確にし、教員間で共有することによって指導方法の改善につながった。
- ・小中連携会議で、中学校の専科の先生と少人数に分かれ、調査結果を基にしながら間違いやすい原因や対策を話し合った。

### 【中学校】

- ・講師を招聘しての研修会で、学習状況調査の分析と本校の実態についての講義、ワークショップを行っていた。普段の授業づくり等について見直す機会とすることができた。
- ・分析結果に基づいて指導方法を改善することによって、生徒の実態に応じた授業改善を行うことができたため、生徒の主体的な学びに結びついた。
- ・県との平均や自校の経年変化を確認し、課題を共通理解することができた。